

私の履歴書

釜本 邦茂

②

1967年4月9日の初得点から14年間で私は190のゴールを日本サッカーリーグ（JSL）で積み上げた。それがいつ200に届くのか、81年のシーズン開幕前から話題になっていた。

「最後はピッチの上で」

JSLで202点 長い闘いに幕

ラストゲーム

10月24日の新日鉄戦までに9点を挙げて王手をかけた。次の11月1日の本田技研戦で200を左足、201を頭で決めて一気にクリアした。ちなみに通算得点歴代2位は碓井博行（日立）の85点だ。

200点目のラストパスをくれたのは入団3年目の楚輪博だった。選手生活の晩年に現れ、私の点の取り方をよく知る相棒に育ってくれた。

84歳のDFがジャンプを60センチしたのと同じ数字だ。この高さならまず競り負けなかったし、DFの背後を取った時は頭でクリアしようとしてもDFは届かず、胸で止めてシュートに持ち込めることが多かった。高低の感覚を養うのにバーに蹴って当てる練習をさせたりもした。ゴールを3×3に9分割して数字が書かれたシュートティ

ングボードもフォーム固めと精度を磨くのに使った。ボードの一番下の列の真ん中が数字の8で「あの8の上の丸をインステップキックで射抜け」などと。そうやって鍛えた上野山信行が後にガンバ大阪の育成を任された時、宮本恒靖、稲本潤一らインステップでしっかり蹴れる選手を育てたのは私の影響らしい。

私を欠いたチームは2位の好成績で終えた。監督としてうれしい反面、選手としては弱気になる。ケガではなく、ピッチに立って終わりたい一心でリハビリに励んだ。

83年11月3日の読売クラブ戦で復帰したが、3日後の三菱重工戦がJSL最後の試合になった。82年は最悪に転じる。5月20日のマツタ戦で右足アキレスを断裂したのだ。結果的にその5日前の日立戦のドリブルシュートがJSL最後の得点（202点）になった。悪い事は重なるもので8月に練習を再開し復帰に備えていたら、再びアキレスけんを断裂。今度は全治3カ月。

私を欠いたチームは2位の好成績で終えた。監督としてうれしい反面、選手としては弱気になる。ケガではなく、ピッチに立って終わりたい一心でリハビリに励んだ。

83年11月3日の読売クラブ戦で復帰したが、3日後の三菱重工戦がJSL最後の試合になった。82年は最悪に転じる。5月20日のマツタ戦で右足アキレスを断裂したのだ。結果的にその5日前の日立戦のドリブルシュートがJSL最後の得点（202点）になった。悪い事は重なるもので8月に練習を再開し復帰に備えていたら、再びアキレスけんを断裂。今度は全治3カ月。



200ゴールを達成した提供。正式な表明は2月13日の新体制発表の場で行った。天皇杯優勝が日産なら、83年のJSLは読売が初優勝した。選手の専らし、JSLもプロ化の荒波にもまれるようになる。当時は意識になかったが、私の引退はアマのリーグで始まったJSLの終わりが近づいた晩鐘でもあった。

（日本サッカー協会顧問）